

図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第25巻2号(通巻166号) 2003.7.10

vol. 25

NO. 2

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

飯野海彦

2 法学初学者のために…

田中昭憲

3 青年期の身体活動は高齢社会を救う

宝利尚一

4 アジスアベバ、日曜日、雨…

牧野圭二

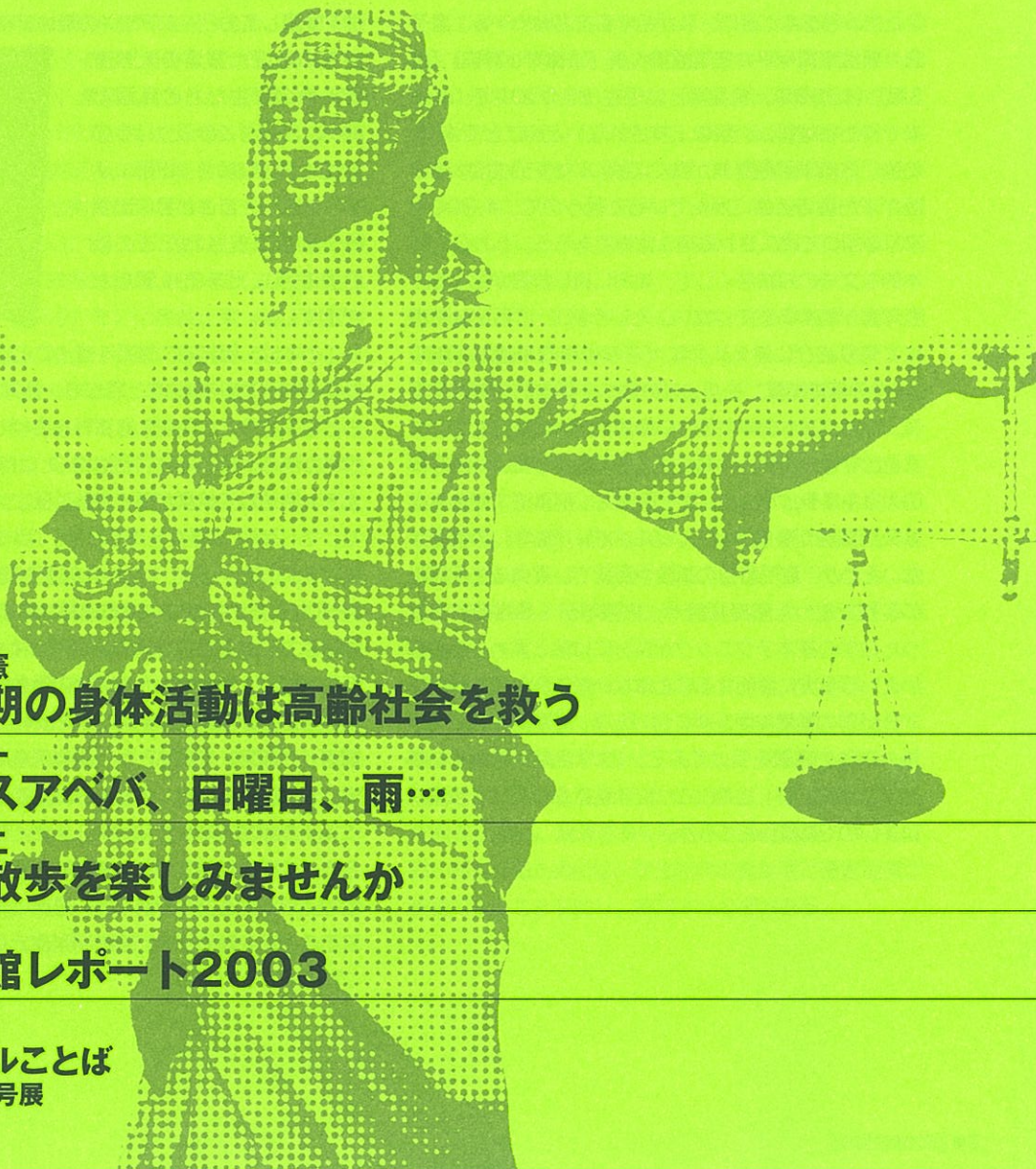
5 知的散歩を楽しみませんか

6 図書館レポート2003

松本慶太

8 コイスルことば

雑誌創刊号展
編集後記



法学初学者のために…

文＝飯野海彦 (いいのうみひこ／法学部助教授)

時折、法学部下級年次の学生から「何かお勧めの法律用語辞典はないか」という質問を受ける。何処の大学・学部であっても、テクニカル・タームの壁は初学者である下級年次学生を悩ますもの。否、一応「専門家」の看板を掲げている我々法律学者であっても、各種法律用語辞典は手放せない。

ただ、残念なことに、私が初学者にお勧めする、金子宏＝新堂幸司＝平井宣雄編集代表『法律学小辞典』[第3版] (1999年、有斐閣) は現在改定作業中で、来年まで待たねば新しい版は上梓されないとのことである。勿論、法律学用語辞典が直ぐに欲しいという方は、第3版が未だ書店店頭に並んでいると思うので、4,300円なりを叩いて購入されるのもよいであろう。しかし、基本的な文法の知識無くして、如何に良い辞書があろうとも洋書が読める訳ではない。という訳で、「兵法は戦場にて切り結びに覚え」式に「法学の専門用語」の前に「法学の基礎知識」を身に付けつつ、基礎的な専門用語はコンテキストの中で正しい用法と共に取り込んでいくことのできる法学入門書の購入をお勧めしたい。法学部のカリキュラムでは、公法・民法・刑事法・政治学の各入門講義が展開されているものの、「法学」の講義がないためか、専門科目の講義や演習で、実体法と手続法の区別と言った基礎知識や、拡張解釈・類推解釈と言った法学の基本テクニックが自分には殆ど具わっていないという事実に直面することはないだろうか。入門講義で分野別の基礎知識を身に付けた後、2学期で憲法・民法・刑法の講義を受けてみて、「法学全般に通用する基礎知識が欲しい」と感じつつ2年生になってしまう諸氏は多いのではないだろうか。

そこで、この冗長な前置きの後にお勧めする一冊が、澤木敬郎＝荒木伸怡著『ホーンブック法学原理』[新版] (1999年、北樹出版) である。この本は、立教大学で法学部1年生向きに展開されていた、故澤木敬郎(たかお)博士担当「法学原理」の講義を基に書かれた法学入門書である。私も学部1年生の時に澤木先生の法学原理を受講しており、エアコンの無いアマゾンの熱帯雨林並みの湿度と室温の大教室で、他の学生たちの私語と戦いながら(この辺りは今の学生と変りない)必死にノートを取ったことが思い出され、文字で表されたこの教科書を手に出来る後輩たちが羨ましい。



この本は、西洋法の体系を説くことに重点を置いてきた従来の入門・概説書と異なり、西洋法の理論的枠組みと日本社会との関連にも視野を広げていることにその特色がある。そして、「社会化」とは何故一日三食が悩まず、寝坊して朝食が遅くても「昼には食べるもんなんだ」で12時には昼食を採るとか、「講義には出席するもんなんだ」といった「もんなんだ主義」により様々な「もんなんだ」を身に付ける過程であるとか、麻雀で負けてふてくされる奴は次から誘ってもらえないように、行為規範に人々を従わせるための働きかけの中で最も大切なものは、「遊んであげない」というサンクション(賞罰併せた概念)であるとか、具体例を用いた説明のユニークさに引き込まれ、すぐ読み終わってしまうであろう。

各入門講義を終えた法学部1年生・編入生や2学期から多くの専門科目と相対する2年生諸君は、試験勉強を始める前である夏休み前半に、是非この一冊をお読みになることをお勧めする。法学部学生としてのスキルアップ間違いなしである。

青年期の身体活動は 高齢社会を救う

文＝田中昭憲

(たなかあきのり／経営学部助教授 体育実技担当)

先日、義理の祖父が他界した。昏睡状態が3日続いたが、急を聞いて駆けつけた孫たちが全員揃うのを待ってから一度意識を取り戻し、その後息を引き取った。享年88歳。大往生であった。生前は糖尿を患い体調を崩すこともあったが、祖母と二人で自立した生活を送っていた。この正月は昨年誕生した曾孫と共に親子四代、温泉で過ごした。先月は曾孫の初節句を祝うため、夫婦で田舎から札幌に出かけてくるほど達者であった。体格の立派な祖父ではあったが、茶毘に付されたその骨は、周囲も驚くほど太く、しっかりしていた。骨仏を拾いながら、あらためて祖父の生前の元気の秘密を理解した気がした。

さて、日本の高齢化問題は深刻さを増すばかりである。今や総人口の5人に1人が65歳以上の高齢者である。高齢社会白書（政策統括官、2002）の推計によれば、平成62（2050）年には高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）が35.7%になるという。また、平成10年における65歳以上の高齢者で日常生活に影響のある者の割合は、高齢者人口1,000人当たり203.3人であった。健康寿命（痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる期間）を延ばすことは、日本の大きな課題である。

奈良県の斑鳩には通称「ポックリ寺」と呼ばれている吉田寺というお寺があり、長患いをせずにポックリと往生したいと願うお年寄りで賑わっているという。長野県下伊那郡高森町ではPPK運動という健康・体力づくり運動が考案され、地域ぐるみでその活動が盛んであるという。PPKとは「ピン・ピン・コロリ」の略で、「病まずに死ぬ」ことを目標にして運動に励む人たちの合言葉である。元気で長生きし、十分に生きて安らかに死にたいという願いは、齢を重ねるごとに強くなるらしい。

NHKの調査によれば、寝たきりとなる原因は脳卒中が最も多く、次いで転倒・骨折が第2位にあげられてい

る。特に、骨がもろくなった高齢者が転倒によって骨折し、歩行困難とその他の合併症により寝たきりの状態に陥る例が多く報告されている。そこで、高齢者を対象にした転倒予防教室などが開催されて効果を上げている。

丈夫な骨を維持・形成するには、十分なカルシウムとビタミンDの摂取、性ホルモンと成長ホルモンの分泌、そして骨への力学的なストレスが必要である。骨形成開始に必要な力学的ストレスの閾値は、骨折を起こす力の約10分の1であり、これは日常生活の運動強度を超えるレベルである。したがって、最近では散歩やウォーキングなどの定期的な運動に加えて、高齢者にレジスタンストレーニング（抵抗を用いた筋力トレーニング）を指導することにより、医療費の削減に成功した自治体の例も報告されている。

一方、骨粗しょう症の予防には、青少年期から成人期までに増加する骨量の最大値を高めることも重要である。人の一生の骨量の推移は、一般に思春期から20代半ばまでに最大値となり、30代後半まで維持され、その後加齢に伴って低下する。成長期に十分な身体活動量を確保していた者は、そうでない者よりも骨量の最大値が高いという調査報告もある。つまり、若い時に活発に運動していた人は、加齢に伴って骨量が低下しても、他の同年代の人よりも健康な骨を維持することができるのである。

戦後の不自由な時代に青年期をきた人たちは、生活や労働など「運動・スポーツ以外の身体活動」で十分な身体活動量を確保していた。しかし、現代は生活の中に運動を取り入れる意識を持たなければ、運動不足に陥る危険性が高い。健康寿命を延長させる戦略の一つとして強い骨を作るためには、学生時代の食生活と運動習慣が重要であることを知り、実践する必要がある。

アジスアベバ、日曜日、雨…

文=宝利尚一

(ほうりしやういち／人文学部教授)

およそ30年前のことです。そのころ、私は新聞社のカイロ特派員でした。1970年代の中東地域は、パレスチナ・ゲリラによる欧米旅客機ハイジャック（乗っ取り）事件（日本航空の旅客機も乗っ取られました）や、第4次中東戦争の勃発、地中海の島国・キプロスでのクーデターとトルコ軍の侵攻などで、世界的な関心を集めていました。

そして、アフリカ大陸でも大事件がありました。1974年9月12日、世界最古の帝国といわれたエチオピアで、ハイレ・セラシエ皇帝が廃位させられ、臨時軍事政権が樹立されました。私は廃位当日、つまりエチオピア帝国崩壊の日、首都アジスアベバの宮殿付近で「その瞬間」取材していました。

セラシエ元皇帝は3000年前のユダヤのソロモン王、シバ女王の直系とされ、「諸王の中の王」「ユダのライオン」と称されました。一時イタリアの侵略を受けましたが、皇帝は治世44年の間に近代エチオピアの国作りを進め、外交面ではアフリカ統一機構（OAU）本部を首都に誘致し、アフリカ外交を活発化させていました。

しかし、長すぎた帝政は特権階級の腐敗を生み、農民、労働者らの生活をより貧しくさせました。軍部の反乱は必然だったといえましょう。

私は、軍部反乱の始まりとなった1974年2月から、急進的な社会主義国家を宣言した同年12月まで、計4回、約45日間、エチオピアに出張しました。エチオピアは多部族、多言語、多文化の国です。人口5,100万人（1990年当時）の約50%が原始キリスト教のコプト教を信じ、約30%がイスラム教を信じています。ハム・セム系人種に属し、男性も女性も細身で、性格が温厚、親しみやすい印象を受けました。彼らが日々食べていたウ

オツツという、カレー風味の料理は今でも好きです。

アジスアベバは標高約1,500mですから、取材で走り回るのは厳禁です。息切れがして、心臓が止まってしまふからです。当時、エジプトの首都カイロからエチオピアに出張するには、マラリアなど感染症の予防注射をしないと、入国できませんでした。エチオピアには、数多くの風土病があったからです。1974年12月にはエチオピア国営テレビのスタッフと一緒に、9日間かけて南部バレ州まで往復約2,300kmをランドローバーで走破し、飢餓地帯の実態取材したこともありました。

1964年の東京オリンピックで、史上初のマラソン2連覇の偉業を達成したのがエチオピアのアベベ・ビキラだったことはよく知られていましたが、その後のエチオピアについては、ほとんど日本に伝わっていませんでした。ですから、私はエチオピアについてできるだけわかりやすく書くことを心がけました。その決め手？は「演歌」だったのです。

1974年7月に2度目のアジスアベバ入りした時、私は「横浜たそがれ」（山口洋子作詞、平尾昌晃作曲、1971年）を思い出し、言葉を羅列してエチオピアの実情を説明できないか、と思ったのです。「木枯らし、想い出、グレーのコート、あきらめ、水色、冷たい夜明け……」ではなく、「水なし、コメなし、飢餓地帯、物乞い、放浪、冷たい高地……」のようなことを考えました。しかし、エチオピア帝国崩壊の直前に、こうした表現は不謹慎だったかも知れません。結局、「アジスアベバ、日曜日、雨……」という書き出して、「崩れ行く帝国、エチオピア」の現状をルポ形式でまとめました。札幌市立中央図書館に保存されている読売新聞縮刷版（1974年7月号）でこの記事を読むことができます。

知的散歩を楽しみませんか

文＝牧野圭二

(まきのけいじ／工学部教授)

レコード、計算尺、ぜんまい式時計。平成に入って見なくなった物である。いずれもアナログ的な機構をもち物理的な仕組みを直接使い、見ているとなんとなくその仕組みが想像できた。しかし、それらはCD、電卓、クォーツ時計にとってかわられ、その存在さえ知らない世代がふえている。アナログ的で物の仕組みが透けて見える時代は昭和で終わったようである。

それに対して現在はデジタルの時代。その中心は電子の機構でありマイクロ化である。多くの機能が組み込まれ応答も速くなった。そのかわり開けても仕組みをうかがうことさえできない。スイッチ・ポンですべて済み、結果だけはすぐ求まり、使う上での工夫も必要ない。

日常の感覚とは大きく異なる尺度と精度の世界で作られ、生活感覚からは実感できない他人の世界である。具体的な身体の大きさに換算して考えてみても想像さえしづらい。(メタルカラーの時代、小学館ハードカバー版・文庫版) 考えようによっては、170メートルのビルが、曲がらずにまっすぐ立っていることだって不思議なことである。だからこそ、仕組みや原理を意識して考える必要がある時代ともいえる。(道具と機械の本～そこからコンピュータまで、岩波書店)

その一方で物を作るところを見ることができない時代でもある。装置の中で自動的に生産される。建設作業にしても危険防止のためか目隠しの囲いの中で行われる。見えないところで作られ、作られたものも開けることさえ難しいブラックボックスの世界では、作り方すら想像できない。普段目に触れていても興味もわからない。(もの作り不思議百科～注射針からアルミ箔まで、コロナ社) 結果として好奇心の欠如という悪循環におちいりかねない。見方によってはかなりあやうい状況である。

仕組みや原理と実際の物との間に大きなギャップがあり連続的につながらない。そのうえ自分で作るよりほかに高機能の完成品が低価格であふれている。またこのギャップが大きい頃育った世代に、「大人の科学」シリーズ(学研)や電子倶楽部60電子回路実験セット(梅沢無線電機)がうけているというのわかるような気がする。100円ショップでも工具が売られている時代である。作る楽しみを思い出し、何でもよいから道具を使ってもっといろいろ作ってみたい。(〔完全版〕世界の一流道具大図鑑、東京書籍)

新しいものが生まれると結果の物だけが一人歩きする。工夫の積み重ねもいつのまにか埋もれてしまう。たとえば現在全盛のワープロソフトも、出発点は25年前に開発されたワープロ専用機にある。それもすでに生産中止となり人々の記憶から忘れられようとしている。それ以前にも日本語で出版するという苦労の歴史があったはずである。(日本語大博物館～悪魔の文字と闘った人々、ジャストシステム・ちくま学芸文庫)

電流は流れ、電圧はかかるものであったはずだが、ことばの世界のこういう言い方も、実感が薄れてきているのか、使えてあたりまえでもなくなってきている。(理工系の日本語コミュニケーション、丸善)

たまたま出会った本をきっかけに思いつくままに書いてきたが、図書館、書店に行けばまだまだ面白いものに行き当たる。たまに変わった本を手にとると予期せぬ出会いがある。新しいネットワークの時代、疲れたときにはWebで「青空文庫」を探索するのもまた面白いかもしれない。

※青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>

図書館レポート2003

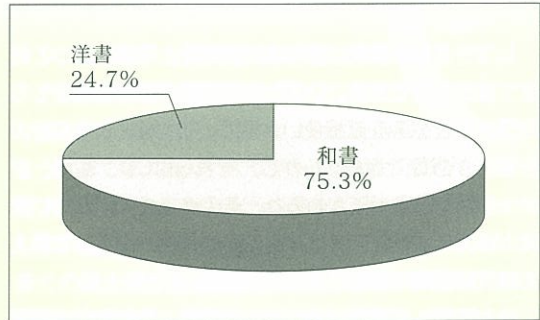
〔蔵書冊数〕

(2003年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
蔵書冊数(冊)	535,480	175,432	710,912

ちなみに2002年度の1年間の受入図書冊数は、24,804冊でした。

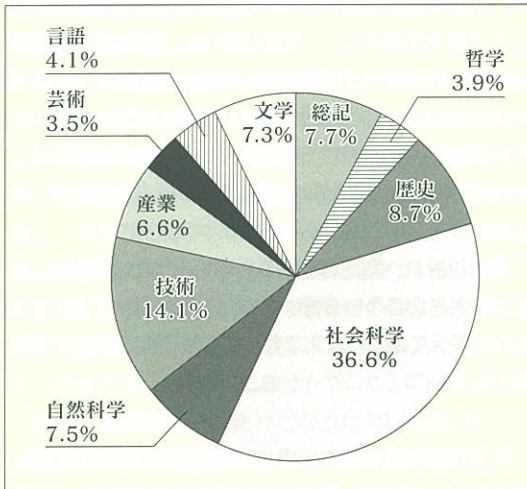
学術雑誌は、9,000種を超えるタイトルを保管しています。



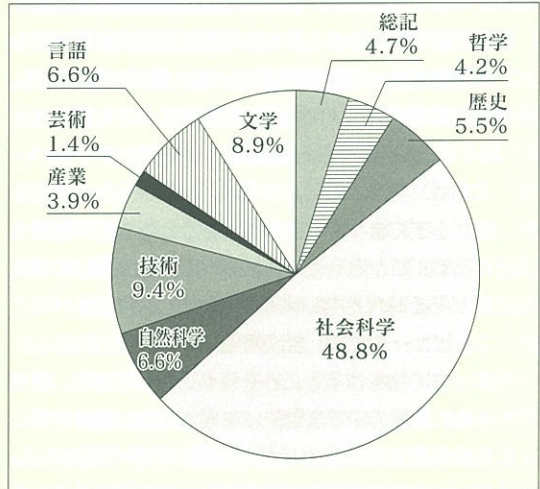
〔蔵書の分野別割合〕

日本十進分類法による

〈和書〉



〈洋書〉



〔カウンター・サービス関係統計〕

	2002年度	2001年度	2000年度
入館者数	461,006人(1日当り 1,628人)	484,037人(1日当り 1,657人)	430,000人(1日当り 1,473人)
貸出者数	延べ37,630人(うち学生 34,979人)	延べ30,077人(うち学生 28,205人)	25,798人(うち学生 22,338人)
学生一人当りの貸出回数	4.0回	3.3回	3.5回
貸出冊数	64,657冊(うち学生 58,346冊)	53,876冊(うち学生 49,206冊)	47,781冊(うち学生 40,309冊)
学生一人当りの貸出冊数	7.3冊	6.2冊	5.4冊
PCブース利用者数	延べ 3,864人	延べ 3,092人	延べ 979人
AVブース利用者数	延べ 1,844人	延べ 386人	延べ 306人

Library Report 2003

〔レファレンス・サービス関係統計〕

(所蔵調査及び館外貸出)

〈学内での調査〉

	教職員	(前年度対比)	学生	(前年度対比)	合計	(前年度対比)
文献所蔵調査	49	▲71	59	▲98	108	▲169
事項調査	14	▲14	27	▲51	41	▲65

〈学外に調査依頼・学外からの調査依頼〉

●複写業務

学外	国内外	国内向け	(前年度対比)	国外向け	(前年度対比)	合計	(前年度対比)
依頼		411	▲79	17	▲12	428	▲91
受入		192	▲5	0	±0	192	▲5

●貸借業務

学外	国内外	国内向け	(前年度対比)	国外向け	(前年度対比)	合計	(前年度対比)
依頼		204	+19	16	+1	220	+20
受入		79	+19	0	±0	79	+19

●文献所蔵調査

学外	国内外	国内向け	(前年度対比)	国外向け	(前年度対比)	合計	(前年度対比)
依頼		50	+15	0	±0	50	+15
受入		23	▲96	0	±0	23	▲96

〈学外者利用者数および本学関係者他館利用者数〉

学外者数	60
他館利用者数	162

2003年度 図書委員 図書選定委員を紹介します。

図書委員

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| ●図書館長 | 小林 真之 | ●法学部 | 松戸 清裕 |
| ●経済学部 | 上村 仁司 | ●人文学部 | 小野寺 静子 |
| ●経営学部 | 春日 賢 | ●工学部 | 桜井 修次 |

図書選定委員

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ●経済学部 | 川瀬 雄也 | 上村 仁司 | ●法学部 | 加藤 信行 |
| | 北倉 公彦 | | ●人文学部 | 安武 秀岳 |
| ●経営学部 | 早川 豊 | 福野 光輝 | ●工学部 | 桜井 修次 |
| | 石井 晴子 | | | |

ヨイスルことば

文=松本慶太

(まつもとけいた/大学院文学研究科 英米文化専攻 修士課程1年)

この間、僕が高校生の時に付き合っていた女性とお酒を呑みました。

こんな状況ではお決まりの、高校生活や付き合っていた頃の思い出話や、今だから言えるあの日の真相等といった内輪暴露話に花が咲いたりしたわけですが、大分アルコールもまわって来た頃に、彼女はこんな事を言い出しました。

「松本くんさあ、人を好きになるのに理由は要らない、って言葉どう思う？」

突然何を言ってるんだ、と思ったのですが、実はこれ、僕が当時彼女に告白した際に使ったフレーズなのだそうです。本人はそんな事きれいさっぱり忘れていました。

いくら高校時代の事とは言え、そんな言葉を大事な場面で口走ってしまった自分が恥ずかしく思えて、僕はこう答えました。

「オリジナリティないねえ〜。今時そんな事言うヤツいるかなあ？」

彼女は笑って同意しましたが、当時はその言葉に感激した、と言いました。確かに歌の文句等で使い古され、手垢にまみれた言葉ですが、恋愛臨戦態勢の高校生という時期と、告白という状況とを考えると、効果的ではあったのかも知れません。また、こういったクサイ台詞を吐くに躊躇がない時期だった、と言えるのかも知れません。今はもう、告白自体がどうしてもよくなってしまいうらい、言葉選びに逡巡してしまう事でしょう。

でも、そんな事に果たして意味があるのでしょうか。好きな人に思いを伝える為に「人を好きになるのに理由は要らない」と言ってしまうのは恥ずかしい事なのではないか。

いや、確かに客観的に見てこれほど恥ずかしい場面はないのですが、僕が言いたいのは、言葉の問題です。

「人を好きになるのに理由は要らない」という台詞は、日本語という言語体系の中で行われた発話行為です。それがある「決まり文句」として多くの人によって使われてきました。勿論、本当に「理由は要らない」のかどうかは議論を要するところです。

とにかく僕は、余りにも使われ過ぎてきた言葉を自ら使っていた事を後になって知り、恥ずかしいと思ったわけですが、それはつまり頻度の問題です。僕があの時に行った「オリジナリティ」も、ある言語体系の枠内でなるべく使用頻度の低い言葉を使用する、といった意味で使ったのだと、後になって気づきました。ある作家が作り出した美しいフレーズも、繰り返し引用されるにつれて、いずれは日常的な、場合によっては恥ずかしい言い回しに落ちてしてしまうものです。

これは考えようによっては恐ろしい事です。僕たちの思考自体も言葉でなされているとすれば、その頭の中も、決められた言葉の枠内の中で右往左往しているのに過ぎないのではないか、そして出てきた言葉がそんなものなら、僕の頭の中もそんなもの……。

結局あの日は空が白むまで大いに語り、太陽の光が目刺さるのを感じながら、帰路に着きました。そして、あんなに話も性格も合うのに、どうしてあの時ダメになったのかなあと、とつくに手遅れになっている別れの理由を、ほんやり考えてみたのでした。

第39回図書展示会

日時：平成15年7月25日～11月30日

場所：図書館1階自由閲覧室

雑誌創刊号展 ～雑誌創刊号はその時代の風を感じさせる～

「西洋雑誌」慶応13～明治2(1877～1869)年、西洋事情の紹介。江戸、開物社。

柳河春三発行ほか雑誌創刊号85種展示中！

編集後記

「雨の日と月曜日はいつも憂鬱」と歌ったのはカーペンターズですが、そんな気持ちにますますうなづけてしまう季節がやってきましたね。学生のみなさんは気だるい空気を吹き飛ばし、どうか熱い夏をお楽しみください。

そういえば、この名曲がカレンの歌声に乗せてこの世に生まれたのも、1971年のちょうどこの季節でした。(畠田)

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第25巻2号 (通巻166号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL(011)841-1161 (本館内線)2273・2274・2275 (工学部内線)7813・7814 印刷所:(株)アイワード